

国土数値情報（高速バス停留所）

製品仕様書

第 1.0.1 版

令和 8 年 8 月

国土交通省
政策統括官付 地理空間情報課

版	更新日	改定内容
第 1.0 版	2024 年 3 月	新規作成 地理情報標準プロファイル（JPGIS） ver. 1.0 準拠
第 1.0.1 版	2026 年 8 月	符号化仕様の修正

目次

1.	概覧	1
1.1	空間データ製品仕様書の作成情報	1
1.2	目的	1
1.3	適用範囲	1
1.4	引用規格	1
1.5	用語と定義	2
1.6	略語	2
1.7	参考資料	2
2.	概覧	2
2.1	適用範囲識別	2
2.2	階層レベル	2
3.	データ製品識別	3
4.	データ内容および構造	3
4.1	応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書	3
4.1.1	国土数値情報応用スキーマパッケージ	3
4.1.2	交通-交通パッケージ	4
4.1.3	高速バス停留所パッケージ	5
4.2	空間スキーマプロファイル	14
4.3	時間スキーマプロファイル	14
5.	参照系	14
5.1	座標参照系	14
5.2	時間参照系	14
6.	データの品質	15
6.1	品質要求及び評価手順	15
7.	データ製品配布	18
7.1	配布書式情報	18
7.2	配布媒体情報	18
8.	メタデータ	18

1. 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（高速バス停留所）製品仕様書 第 1.0.1 版
- 日付：2026 年 8 月 28 日
- 作成者：国土交通省 政策統括官付 情報活用推進課
- 言語：日本語
- 分野：交通
- 文書書式：PDF

1.2 目的

本製品仕様書に基づく国土数値情報データは、国土計画や地域計画等の策定支援や、土地・不動産分野での活用を目的とする。また、各分野で広く利用されることも想定している。

本データは、全国の高速バス停留所の位置（点）、名称、区分、事業者名、バス系統、始点終点情報について整備したものである。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲：日本全国
- 時間範囲：本製品仕様書に基づき作成されるデータの作成年度まで

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014（令和元年 7 月）

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用する専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 「附属書 5 (規定) 定義」

- GIS ホームページ ガイダンス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/first.html>

1.6 略語

本製品仕様書で使用する略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards

- JMP Japan Metadata Profile

- UML Unified Modeling Language

1.7 参考資料

国土数値情報で使用するコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

2. 概覧

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

国土数値情報（高速バス停留所）製品仕様書 第 1.0.1 版 適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3. データ製品識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称：国土数値情報（高速バス停留所）データ
- 日付：2024年3月18日
- 問い合わせ先：国土情報提供サイト運営事務局
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/inquiry.html>
- 地理記述：全国

4. データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報データ集合パッケージおよび国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、産業統計や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。

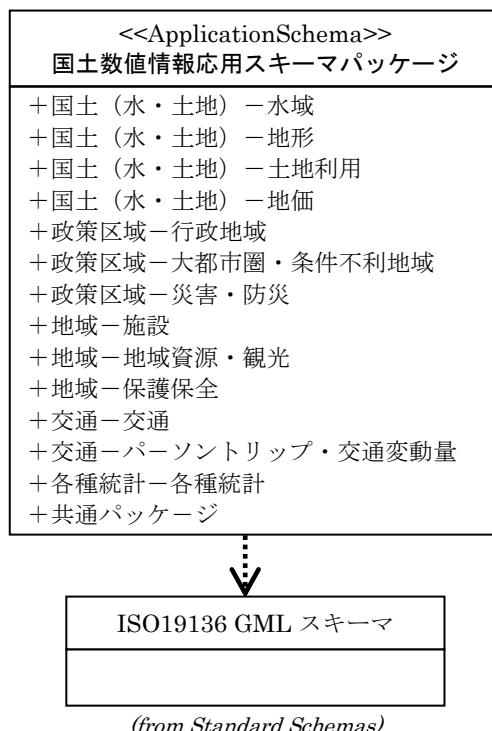


図 1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

4.1.2 交通-交通パッケージ

このパッケージは、交通-交通パッケージをまとめたものである。

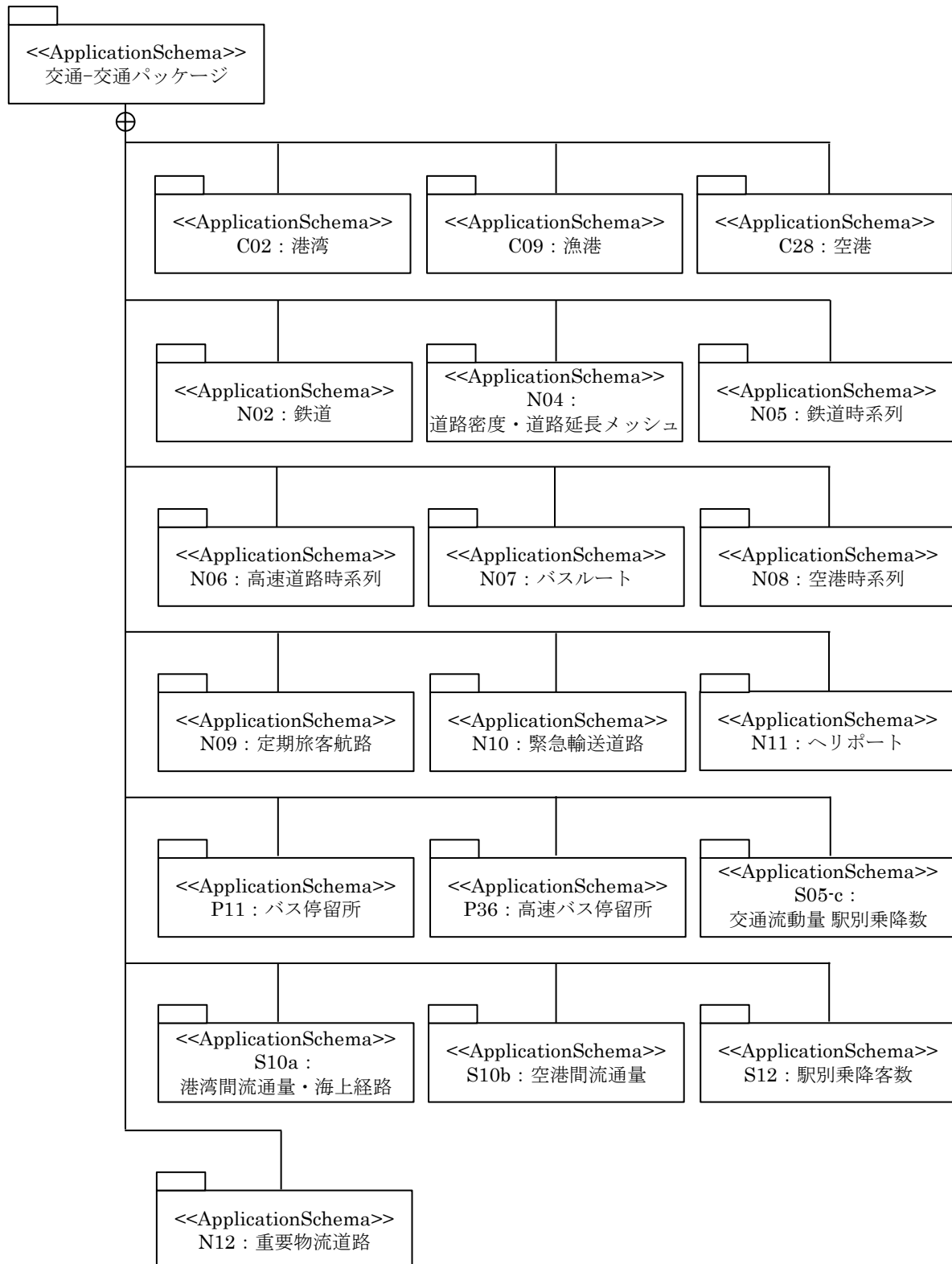


図 2 交通-交通パッケージ

4.1.3 高速バス停留所パッケージ

このパッケージは、高速バス停留所に関する内容をまとめたものである。

4.1.3.1. 応用スキーマクラス図

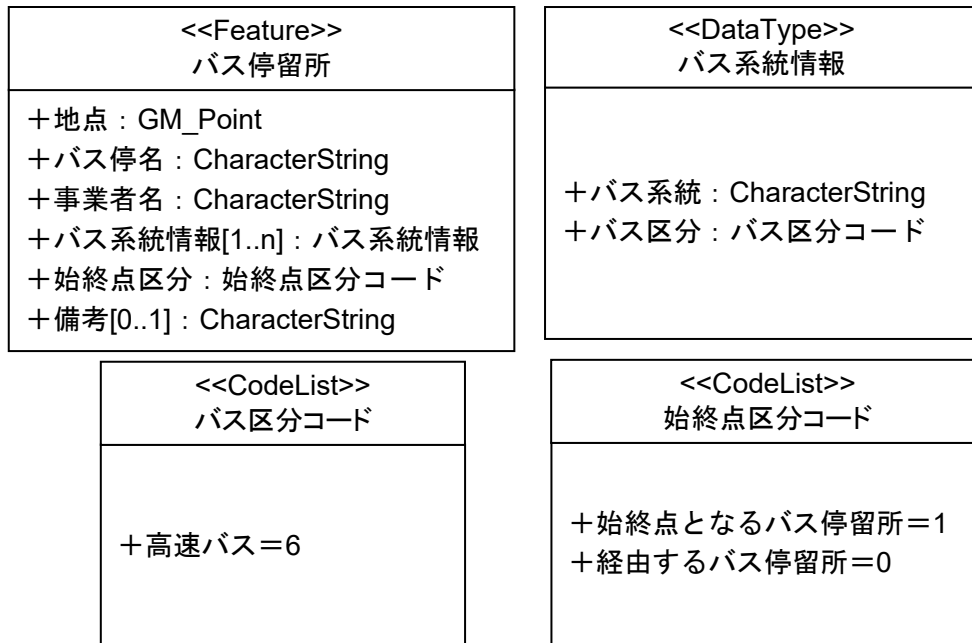


図 3 応用スキーマクラス図

4.1.3.2. 応用スキーマ文書

高速バス停留所

高速バス停留所は、民間事業者が運行する高速バス路線について、その停留所を表したものである。整備対象は「高速バス」（表 4-1）とする。

表 4-2 整備対象とするバス区分

バス区分コード	バス区分	説明	一般的な呼称
6	高速バス	民間事業者が高速バスと分類しているバス路線を対象とする（※）	高速バス、高速乗合バス、都市間高速バス

※民間事業者ホームページ等において路線バスとは分けて、「高速バス」、「高速」、「高速乗合バス」、「都市間高速バス」等で分類されている路線を対象とし、高速道路上だけではなく、一般道路を含む高速バス路線で利用している全てのバス停留所を整備対象とする。

表 4-3 整備対象外とするバスの種類

整備対象外とするバス	
福祉バス	貸切バス
特定日（イベント開催日）のみの運行	定期観光バス
年間3カ月未満の期間のみの運行 例）毎年10月から11月のみ運行	シャトルバス（ある地点の利用者サービスとして運行し、一般乗降不可もしくは運賃が無料なもの）
実証実験中のもの	スクールバス※
資料収集時点で運休中のもの	特定条件の利用者の輸送を目的とするもの

※一般混乗可能なスクールバスは整備対象。

運行を他の事業者に委託している場合は、運行事業者の事業者名で整備する。

■主題属性の日本語表記における共通定義域

1. 基本ルール

- 片仮名は全角文字を使用する。
- 英数字は半角文字を使用する。
- 記号類およびスペース「 」は全角文字を使用する。ただし、ハイフン「-」と、スラッシュ「/」は半角とする。
- タブ文字の仕様は不可とする。空白を挿入する際は全角スペース「 」を使用する。

2. その他

- 括弧「（）」、「[]」は組み合わせて使用する。「括弧開き」または「括弧閉じ」の片方だけの入力是不可とする。

地点：GM_Point

高速バス停留所の位置。配置位置は道路の中心とする。

同一道路に存在する同一名称の高速バス停留所に対し、1 事業者につき 1 図形データを作成する。1 事業者内で複数の高速バス系統がある場合は、1 図形データに複数の高速バス系統属性を付与する。

また、以降における凡例は、図 4 のとおりとする。

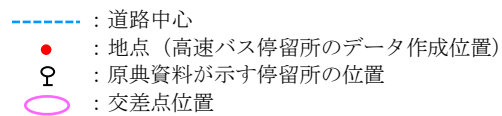


図 4 図中の凡例

1. 基本ルール

配置は道路の中心とする。上下線の間や道路中心部に立体、鉄道軌道等の構造物がある場合は、いずれかの道路の中心に作成する。



図 5 高速バス停留所作成方法

2. 上り・下りで位置が異なる高速バス停留所

①同一道路上にある上下線の高速バス停留所は一箇所に統合しデータを作成する。

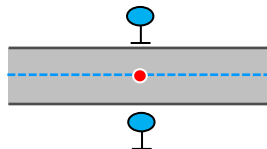


図 6 上下線のバス停留所作成方法

②高速バス停留所の位置が離れているが同じ道路上に存在する場合は、道路中心線と両バス停留所を直線で結んだ線の 2 本が交差する場所を高速バス停留所の位置として作成する。この際、上下線の高速バス停留所間の距離は不問とする。

なお、異なる道路上にある場合は、別の高速バス停留所として作成する。

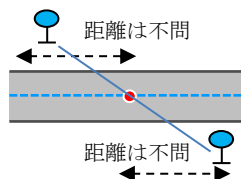


図 7 上下線で位置が離れている場合の高速バス停留所作成方法

3. 同一道路上にある高速バス停留所

100m 以内に存在する同一名称・同一道路上の高速バス停留所は、同一事業者の場合 1 箇所の高速バス停留所として作成する。異なる事業者の場合は別の高速バス停留所として事業者の数だけ作成する。100m 以内に同一名称の高速バス停留所が存在する場合は、地点の座標を同一とする。ただし、範囲内に同一名称の国土数値情報令和 4 年度版のバス停留所(以下、“路線バス停留所”)が存在する場合は、路線バス停留所と地点の座標を同一とする。

また、最寄りのバス停留所から上下線のいずれか、もしくは上下線を束ねた位置の距離が 100m を超過している場合は別の高速バス停留所として作成する。

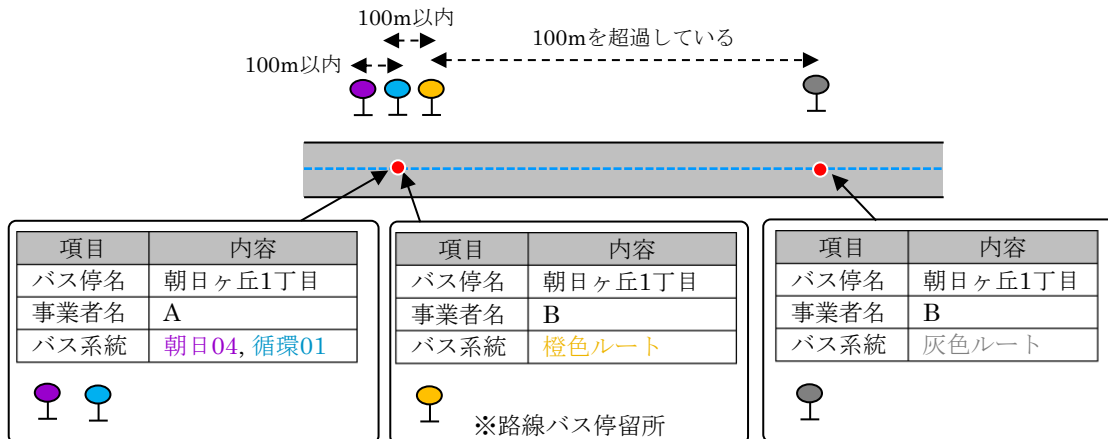


図 8 同一道路上のバス停留所作成方法

4. 駅前ロータリーなどのバスターミナルのバス停留所

高速バス停留所が同一事業者かつ同一名称の場合、標柱や乗り場が複数あっても 1 箇所の高速バス停留所として作成する。同一ロータリー内に同一名称の高速バス停留所が存在する場合は、地点の座標を同一とする。ただし、同一ロータリー内に路線バス停留所が存在する場合は、路線バス停留所の地点に作成する。事業者が異なる場合または高速バス停留所の名称が異なる場合には、別の高速バス停留所として作成する。

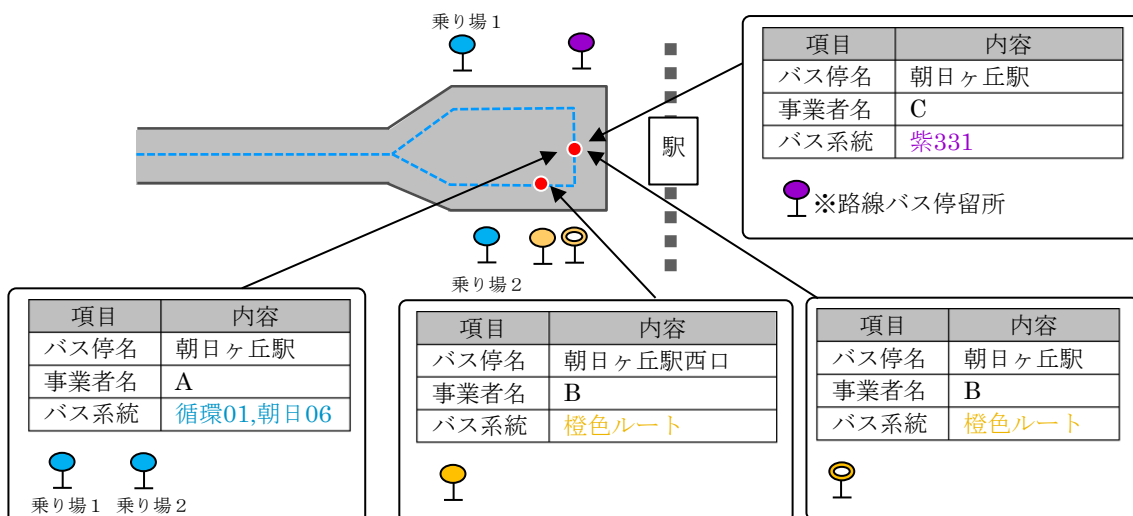


図 9 バスターミナル等での名称の異なる高速バス停留所作成方法

5. 交差点の高速バス停留所

同一名称の高速バス停留所が異なる道路に存在するが、両者が交差点位置から 100m 以内である場合、交差点の中心に高速バス停留所を作成する。

また、上下線で高速バス停留所の位置が離れている場合は、上下線の高速バス停留所の中心位置と交差点位置を基準とする。

なお、交差点位置は交差点の中心ではなく、バス停留所がある道路が交差部に到達した点とする。

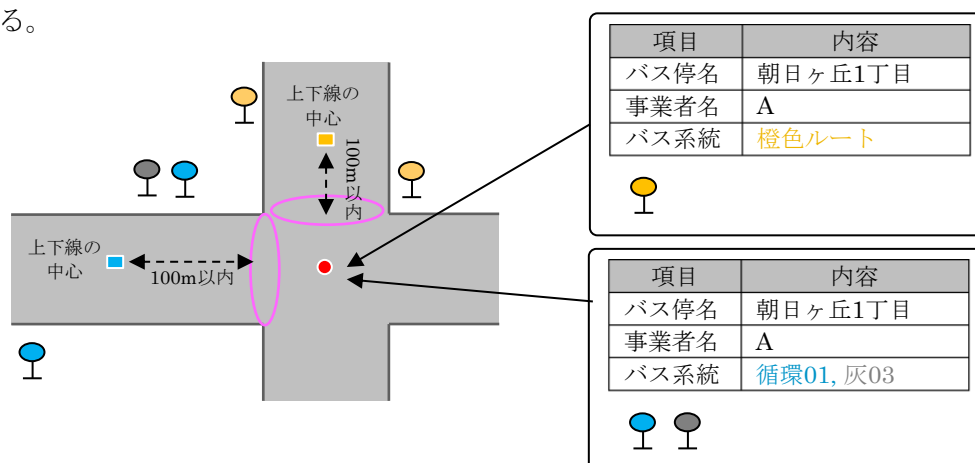


図 10 交差点付近のバス停留所作成方法

バス停名：CharacterString

原典資料に記された高速バス停留所の名称。原典資料に略称と正式名称が記載されていた場合は、正式名称を採用する。なお、丁目等の表記において漢数字・算用数字の違いは可とする。

例) 同一高速バス停留所に対し「〇〇小」と「〇〇小学校」の2種類の表記がある
⇒「〇〇小学校」を正式名称と判断して採用する。

例) 原典資料が「西寺尾四丁目」であるが、入力値が「西寺尾4丁目」であっても可とする。

■定義域

254 バイト以内とする。

事業者名：CharacterString

原典資料に記された高速バス停留所を運営する事業者の名称。事業者名の会社形態（「株式会社」等）は表 4-4のとおり省略し、全て全角文字を使用し記述する。

例) 京阪バス株式会社 ⇒ 京阪バス（株）

表 4-4 会社形態の省略記述例

会社形態等	入力 (全て全角を使用する)
株式会社	(株)
有限会社	(有)
合名会社	(名)
合資会社	(資)
合同会社	(同)
医療法人、医療法人社団、医療法人財団	(医)
一般財団法人	(一財)
公益財団法人	(公財)
一般社団法人	(一社)
公益社団法人	(公社)
学校法人	(学)

共同運行を行っている場合、事業者名を五十音（あいうえお）順の昇順で記述し、事業者名の区切りは全角の「・」を使用する。

例) (株) 伊豆東海バス・宇和島自動車（株）

■定義域

254 バイト以内とする。

バス系統[1..n]：CharacterString

高速バスの系統番号または系統名。

系統は、「始点～終点」の組み合わせ毎に一系統とする。便によって経由地が異なる場合、全ての経由地を合わせて一系統とする。なお上下線については、始点＝終点、終点＝始点となっている場合はまとめて一系統とする。

系統番号が付与されていない場合は、原典資料に記載の表記を用いて系統名称を付与す

る。原典資料の表記のみで適切に分類できない場合は、〇〇経由、〇〇行き等の走行情報を追記し区別する。

高速バスの同一路線にて始点または終点の一部異なる便が存在し、上下線で始点、終点の組合せが同一である場合は系統名称の末に「[]」を追加し、始終点となるバス停留所名称を「⇄」（始終点となるバス停留所は順不同）で繋いで系統を区分する。

例) 「東京線」という路線で終点となるバス停留所が2つある場合

- ・系統1：東京線 [始点⇄終点1]
- ・系統2：東京線 [始点⇄終点2]

また上下線で始終点がそれぞれ異なる便が存在する場合は始終点の組み合わせ毎に、始点と終点となるバス停留所を「→」で繋いで系統を区分する。

例) 「東京線」という路線の上下線で始終点がそれぞれ異なる場合

- ・系統1：東京線 [始点1→終点1]
- ・系統1：東京線 [始点2→終点2]

■定義域

254 バイト以内とする。

バス区分[1..n]：バス区分コード

バス路線の種類を「バス区分コード」で表現する。

■定義域

「バス区分コード」が取り得る範囲。

表 4-5 「バス区分コード」の内容

コード	種類	説明
6	高速バス	民間事業者が高速バスと分類しているバス路線

始終点区分[0..1]：始終点区分コード

各系統において、始終点及び経由するバス停留所を「始終点区分コード」で表現する。

■定義域

「始終点区分コード」が取り得る範囲。

表 4-6 「始終点区分コード」の内容

コード	種類	説明
1	始終点となるバス停留所	系統において始終点となる高速バス停留所 (始点、終点は順不同)
0	経由するバス停留所	系統において始終点間で経由する高速バス停留所

備考[0..1] : `CharacterString`

バス停名、事業者名、バス系統、バス区分、始終点区分に関する内容かつ、該当地物に関して特別に記録すべき事項のみを記述する。運行情報のように頻繁に変化する情報は記述しない。

■定義域

254 バイト以内とする。

4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の時間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 時間スキーマ」を採用する。

5. 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2011 / (B,L)

5.2 時間参照系

参照系識別子 : GC / JST

6. データの品質

6.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料が示す高速バス停留所と対応関係がとれない高速バス停留所データが存在すれば、それを過剰なデータと数える。また、データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合、本体を除き、重複している余分なデータの個数をエラーとして数える。 ただし、原典資料に誤りがあり、過剰であることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	過剰データ数：0個

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料と対応するバス停留所データが存在しない場合、それをデータの漏れと数える。 ただし、原典資料に誤りがあり、漏れであることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	データの漏れの数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）を数える。
データ品質評価手法	XML パーサによる全数検査を実施する。
適合品質水準	XML 文書の構文エラーの数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合と符号化仕様が規定する XML スキーマを比較し、矛盾箇所を数える。
データ品質評価手法	XML バリデータによる全数検査を実施する。
適合品質水準	符号化仕様のXML スキーマに対する矛盾の個数：0個

データ品質要素・副要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	属性の値が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	属性の値に使用されている文字が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の値に使用されている文字の数 / 地物属性の値に使用されている文字の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて、ズームレベル15～17が表示される縮尺で表示し、背景図の道路上にないものをエラーとする。 ただし、更新が不要な系統については、他の道路と混同されない程度の位置ずれはエラーとしない。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示したものに原典収集を並べて表示し、原典資料と齟齬があるものをエラーとする。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率 : 0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物を県単位で背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示し、当該県内に含まれているかを確認する。当該県内に存在しない地物の個数をエラーとして数える。 ただし、経年変化等、背景図の方が誤りと思われる場合を除く。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・相対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	同一名称の地物間距離が100mよりも離れていることを確認する。100m以内に存在する地物の個数をエラーとして数える。 ただし、同一座標値である場合、同一道路上にない場合を除く。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素・副要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	高速バス停留所
データ品質評価尺度	地物属性の高速バス路線のバス停名、バス区分、事業者名、バス系統、始終点バス停を原典資料と比較し、原典資料に記載されている内容と一致しない地物の割合を算出する。 誤率（％）＝（内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

7. データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

JPGIS 2014 附属書 12（規定）地理マーク付け言語(GML)

■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 2014 (GML) 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

<http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1/>

国土数値情報（高速バス停留所）応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XML Schema については付属資料を参照のこと。

名前空間：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd>

名前空間接頭辞：ksj

■ 文字集合

UTF-8

■ 言語

日本語

7.2 配布媒体情報

■ 単位

全国

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。
国土数値情報ダウンロードサービス

URL：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

8. メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、JMP2.0 を採用する。

国土数値情報（高速バス停留所）製品仕様書 第 1.0.1 版

付属資料

付属資料－１ 符号化仕様作成のためのタグ一覧

カテゴリー	パッケージ	クラス	属性・ 関連役割	型	タグ名	英語名 (属性・関連役割のみ)
交通-交通パッケージ						
P36:高速バス停留所パッケージ						
高速バス停留所				ExpressBusStop		
		地点	GM_Point	loc	Location	
		バス停名	CharacterString	bsn	Bus Stop Name	
		事業者名	CharacterString	boc	Bus Operation Company	
		バス系統情報 [1..n]		bri	Bus Route Information	
		バス系統	CharacterString	brn	Bus Route Name	
		バス区分	バス区分コード	brt	Bus Route Type	
		始終点区分	始終点区分コード	bst	Bus Stop Type	
		備考 [0..1]	CharacterString	rmk	Remarks	

付属資料－2 符号化仕様

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema
  xmlns:ksj="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
  xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd"
  elementFormDefault="qualified">
  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import
    namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
    schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.xsd"
  />
  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML" />
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue" />
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element name="ExpressBusStop" type="ksj:ExpressBusStopType"
    substitutionGroup="gml:AbstractFeature" />
  <xsd:complexType name="ExpressBusStopType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>高速バス停留所</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
        <xsd:sequence minOccurs="1" maxOccurs="1">
          <xsd:element name="position" type="gml:PointPropertyType">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>地点</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="bsn" type="xsd:string">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>バス停名</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
        </xsd:sequence>
      </xsd:extension>
    </xsd:complexContent>
  </xsd:complexType>

```

```

<xsd:element name="boc" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>事業者名</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="bri" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>バス系統情報</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="brn" type="xsd:string">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>バス系統</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="brt" type="ksj:BusTypeCodeType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>バス区分</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="bst" type="ksj:BusStopTypeCodeType">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>始終点区分</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
<xsd:element name="rmk" type="xsd:string" minOccurs="0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>備考</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusStopPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:ExpressBusStop" />
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup" />
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup" />
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusStopMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:ExpressBusStop" />
      </xsd:sequence>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>

```

```

        <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup" />
    </xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
<!-- コードリスト定義 -->
<xsd:simpleType name="BusTypeCodeType">
    <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>バス区分コード</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:union memberTypes="ksj:BusTypeCodeEnumType ksj:BusTypeCodeOtherType" />
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BusTypeCodeEnumType">
    <xsd:restriction base="xsd:string">
        <xsd:enumeration value="6">
            <xsd:annotation>
                <xsd:appinfo>
                    <gml:description>高速バス</gml:description>
                </xsd:appinfo>
            </xsd:annotation>
        </xsd:enumeration>
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BusStopTypeCodeType">
    <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>バス区分コード</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:union memberTypes="ksj:BusStopTypeCodeEnumType ksj:BusStopTypeCodeOtherType" />
</xsd:simpleType>
<xsd:simpleType name="BusStopTypeCodeEnumType">
    <xsd:restriction base="xsd:string">
        <xsd:enumeration value="0">
            <xsd:annotation>
                <xsd:appinfo>
                    <gml:description>経由するバス停留所</gml:description>
                </xsd:appinfo>
            </xsd:annotation>
        </xsd:enumeration>
        <xsd:enumeration value="1">
            <xsd:annotation>
                <xsd:appinfo>
                    <gml:description>始終点となるバス停留所</gml:description>
                </xsd:appinfo>
            </xsd:annotation>
        </xsd:enumeration>
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
</xsd:schema>

```